

# 京都市市町村体制づくり支援交付金 自己評価調書

団体名

京丹後市

## 2. 平成27年度 京都市市町村体制づくり支援交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
広域連携事業		公共交通利用促進事業							
<b>事業着手前</b>									
課題・現状	丹後地域の公共交通の大動脈である京都丹後鉄道(丹鉄)は、京阪神と本市及び丹後・但馬間並びに市内の要所を結び、通学、通勤及び観光・ビジネス客の重要な交通手段である。近年、乗客数の落ち込みが著しいため、乗客の減少に歯止めをかけるとともに利用を促進する必要がある。								
事業概要	65歳以上の高齢者が丹鉄を利用する場合に片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図る。								
期待される事業効果等	今まで各自治体がそれぞれの丹鉄利用促進を実施していたが、広域連携による事業実施により、丹後地域全体の相乗効果が期待できる。また、広域連携によるコスト削減により財政負担の軽減を図ることができる。								
<b>事業実績</b>									
取組状況	65歳以上の高齢者が丹鉄を利用する場合に片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図った。								
主な実績数値 (出来高数値等)	65歳以上の利用者:平成26年度20,484人 → 平成27年度19,633人(前年比4.2%減)								
期待される事業効果等 に対する達成状況	○	(左の理由)		広域連携によるコスト削減により財政負担の軽減を図ることができた。期間限定で京都丹後鉄道開業記念フリーきっぷが売り出され、200円レール利用者数が伸び悩んだが、全体としての市内各駅乗車人数は、前年度に比べて36,650人増加した。					
<b>事業効果</b>									
事業効果の考え方	丹後広域で200円レール事業を行うことにより、効果的な丹鉄の利用促進が図られ、単独で事業を展開した場合は2市2町委託料総額以上の事業費が必要と見込まれる。								
年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度					
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	11,073	24,123	19,568	19,062					
本事業の実績額(b)	6,050	11,423	10,302	9,476					
効果(a)-(b)	5,023	12,700	9,266	9,586					